

平成 25 年度石見銀山基金事業(2 次募集分)の選定結果について

平成 25 年 6 月 29 日（土）に開催した石見銀山基金事業選定委員会により、平成 25 年度 8 月以降に実施する石見銀山基金事業について、候補事業（要望事業）の公開プレゼンテーションと審査を行った。

今回、審査の対象となったのは、2 団体から要望のあった 2 つの事業で、審査の結果、2 事業すべてが基準点以上の評価を受け、石見銀山基金事業として選定された。

以下、関連資料

- ・ 石見銀山基金事業選定委員会委員名簿
- ・ 審査事業リスト
- ・ 審査事業審査表
- ・ 選定基準

■ 石見銀山基金事業選定委員会委員名簿

(任期：平成25年 6月 1日～平成28年 3月31日)

氏名	職業・所属団体・役職	備考
渡邊 一正	NPO 市民文化財ネットワーク鳥取 理事長	委員長
久保田 典男	島根県立大学 准教授	副委員長
高須 佳奈	島根大学 特任講師	
梅 恒雄	大田商工会議所 専務理事	
椿 真治	島根県教育庁文化財課 調整監	
蓮花 正晴	大田市 副市長	

※石見銀山基金事業選定委員会（平成25年6月29日開催）

（出席）渡邊委員、久保田委員、高須委員、梅委員、椿委員、蓮花委員

■ 審査事業リスト

項目	申請団体名	事業名	事業概要	申請団体が目指す効果(目的)
石見銀山を伝える活動	納川の会	「2014年 大森町民元気カレンダー」制作	大森町の遺跡、施設、神社、運動会、イベントなどを背景に大森町に暮らす住民とその場に居合わせた観光客なども一緒に撮影し、カレンダーとして大森町全戸と大田市主要施設に無料配布。	大森町のあちこちに見かけるこのカレンダーには、元気に暮らす住民や大切に守り継がれてきた美しい景観が映しだされている。先人より受け継いだこの美しい景観を守ることに通じることである。 カレンダーに毎回挿入されている「We are here」は、私たち住民が、まさにここに暮らしていることを発信し、同時にこの街の美しさを伝えている。 途切れることなく続けていくことが重要と考え、50年続けることを目標としている。
	家の女たち	石見銀山の暮らしの小冊子「仕舞う(しまう)」刊行	石見銀山の武家や商家に伝わる家財の仕舞い方の調査成果をまとめた小冊子「仕舞う(しまう)」を刊行し、石見銀山で育まれた暮らしの知恵と工夫を紹介する。	平成13年から現在までの間、大森町内の熊谷家、河島家、渡辺家、柳原家、山中家などの家財調査を行ってきた。当時の文化や風習、人々の暮らしを映し出している家財を調査する過程でその仕舞い方には、物品の材質や形態などに応じて違いがあり、その仕舞い方からも石見銀山に暮らした人々の暮らしの知恵が含まれていて、モノを大切にしたい「もったいない」を知ることができること現代生活で欠かせない3R(Reduce:減らす Reuse:繰り返し使う Recycle:再資源化)に繋がることに注目し、仕舞い方や仕舞うための道具について5分野に分類して調査を行った。 小冊子を刊行することで、来訪者の知的関心に応える効果が期待できるとともに石見銀山における先人の知恵と工夫がもたらした「もったいない」な暮らしを広く伝えることで石見銀山の先人に学ぶこれからの循環型生活を提案できると考えている。また、より広範囲に石見銀山での暮らしを伝える効果が期待できるものとする。

■ 審査事業審査表

項目	申請団体	事業名	評価点							採否 採 択 ○ 不採 択 ×	備考
			A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員	合計		
石見銀山を伝える活動	NPO 法人納川の会	「2014年 大森町民元気カレンダー」制作	18	21	27	22	20	22	130	○	条件付き
	家の女たち	石見銀山の暮らしの小冊子「仕舞う（しまう）」刊行	20	23	27	18	21	21	130	○	条件付き

※ 総得点（180点）の6割（108点）以上の点数を獲得した団体の中から、獲得点数の高い順に選定（事業採択）

選定委員からの条件

○「2014年 大森町民元気カレンダー」制作 (NPO 法人納川の会)

1. 石見銀山とカレンダーの関連を明瞭にすること。明瞭にする中で文章などを提出される場合は、事前に当法人と協議をすること。
ただの集合写真と見られてしまう危険性が高い。銀山を地元の人々も訪問する人々も一緒に支えている様子を示すことが出来れば、銀山の文化的景観を示す一層素晴らしいカレンダーとなる可能性がある。
2. 今まで石見銀山基金を使われずにこられたが、なぜ石見銀山基金を使われることになり、どのように石見銀山を伝える活動として展開していくのかを示すこと。
3. 「石見銀山基金を活用した事業」であることを表記すること。また、ロゴを使用する場合は当法人と協議をすること。
4. 要望書の収支予算書の中の支出予算で、「撮影・印刷費一式」の詳細な内訳を提出すること。

○石見銀山の暮らしの小冊子「仕舞う（しまう）」刊行 (家の女たち)

1. 申請書の予算計画において石見銀山基金をどの部分に使おうとしているのか示すこと。
2. 今回の出版計画は十分に商業的な出版ルートに乗せ得る内容と考えられるが、敢えてこれを使わない場合にはその理由を明確にし、これらの考え方を予算計画書に示すこと。
3. 今回の企画団体である「家の女たち」と一部業務を委託しようとしている「小泉和子生活史研究所」では代表者が同一であるので、第三者から予算の使途に疑問を持たれる危険性がある。業務委託内容と経費の明細を示すなどによって計画の透明性を示すこと。
4. 「石見銀山基金を活用した事業」であることを表記すること。また、ロゴを使用する場合は当法人と協議をすること。

■ 選定基準

石見銀山基金事業選定委員会では、次の各評価項目について審査し、その総得点の6割以上の点数を獲得した団体から順次、獲得点数の高い順に石見銀山基金事業として選定する。

(1) 評価項目及び評価の着眼点

評価項目	評価の着眼点
①継承性	I 地域共通の課題の存在を認識し、解決を図る活動であるか。 II 未来の世代に良好な地域環境や地域社会をもたらす活動であるか。 III 目的を共有する誰もが参加できる開かれた組織による活動であるか。 IV 石見銀山の新たな価値を見出し、地域への誇りを醸成する活動であるか。
②必要性	I 社会情勢に対してニーズが高い活動であるか。 II 取り組む必要性が明確であるか。
③公益性	広く地域、社会に貢献する活動であるか。
④発展の可能性	I 今後、その成果の広がりを期待することができるか。 II 次世代の育成につながるか。 III 今後、継続して取り組める体制、計画となっているか。
⑤実現の可能性	実施体制、事業計画、資金計画、スケジュールなどが実現可能なものとなっているか。
⑥費用の妥当性	経費の見積もりは、活動の内容に見合う適正なものとなっているか。

(2) 評価方法

上表の評価項目ごとに5段階評価で採点する。

(最高点：6項目×5点＝30点) ※委員1人あたりの得点